

例中、他疾患の同時手術例を除き、根治度 A であった 124 例。

【結果】開腹手術群（以下 O 群）は 47 例、腹腔鏡手術群（以下 L 群）は 76 例であった。手術時間、出血量、入院期間は O 群で平均 123 分、186 ml、18.7 日、L 群で平均 182 分、33ml、11.8 日であり、L 群で有意に手術時間は長く、出血量は少なく、入院期間は短かった。合併症の発生率に有意差はなかった。

【結語】TC、DC に対する腹腔鏡下手術は、手術時間は長いものの、侵襲は少なく、有効な手術といえる。

2 腹腔鏡下脾動静脈温存脾体尾部切除を施行したインスリノーマの 1 例

小川 洋・皆川 昌広*・森本 悠太
清水 孝王・谷 達夫・長谷川 潤
島影 尚弘・田島 健三
長岡赤十字病院外科
新潟大学消化器・一般外科*

今回主脾管と近接した脾体部インスリノーマに対して脾動静脈温存腹腔鏡下脾体尾部切除を施行した。

症例は 70 歳、女性。主訴は低血糖発作。腹部 CT・MRI にて主脾管と近接した脾体部径 1.5cm 大腫瘍を認めた。2 月 17 日腹腔鏡下脾動静脈温存脾体尾部切除術施行。脾切離は CUSA で脾腹側浅部の切離を先行した後、自動縫合器（ステイブル高 4.8mm）を用いて行った。手術時間 365 分で出血量は 230ml。術後 13 病日に温存した脾動脈近位に仮性瘤を認めたため脾動脈コイル塞栓術を施行したが、短胃動脈からの脾臓への血流は温存され結果的に脾梗塞は回避された。以後は経過良好となり 23 病日に退院した。実際の手術手技を供覧する。

3 腹腔鏡下で治療しえた腹膜妊娠の 1 例

鈴木 美奈・山脇 芳・水野 泉
安田 雅子・遠間 浩・安達 茂実
島影 尚弘・田島 健三
長岡赤十字病院産婦人科

全子宮外妊娠の 1% 程度という極めて稀な腹膜妊娠症例を経験し、腹腔鏡下手術にて根治しえたので報告する。

症例は 32 才、0 妊 0 産。体外受精・胚移植にて妊娠成立するも子宮外妊娠が疑われ紹介。画像にて子宮前面に 3 cm 大の血流に乏しい腫瘍を認め、腹腔鏡下手術を施行した。

【手術所見】着床部は壁側腹膜で大網、右卵管采が癒着。Liga Sure にてその癒着を凝固切断し、胎嚢が十分確認できる視野が得られた。その後、胎嚢を壁側腹膜から剥離除去、止血した。手術時間 1 時間 7 分、出血少量であった。

【まとめ】腹膜妊娠の腹腔鏡下手術は、適応：妊娠 9～10 週未満、病巣 4～5 cm とされている。今回の症例は腹膜妊娠流産と思われるが、腹腔鏡下手術を試みることで着床部の診断ができ、かつ、身体的負担少なく治療ができた。

4 当科における食道癌に対する VATS-E クリニカルパスの導入

佐藤 優・河内 保之・牧野 成人
矢田 祐子・黒崎 亮・川原聖佳子
西村 淳・新国 恵也
厚生連長岡中央総合病院
消化器病センター外科

当院では 2004 年より食道癌に対し胸腔鏡補助下食道切除（以下 VATS-E）を開始し、更なる安全性、効率性を目指し 2007 年よりクリニカルパス（以下 CP）を導入したのでその成績について報告する。適応は VATS-E、胃管再建を施行する症例とし、2007 年 2 月から 2010 年 5 月までの適応症例は 38 例であった。平均年齢は 68.6 歳（56-83 歳）、CP 完遂例は 28 例（74%）で術後平均在院日数は 17.3 日であった。バリエーションの主な原因としては呼吸器合併症 4 例、反回神経麻痺